

決裁区分	部長	課長	課長補佐	担当技幹	起案	分類	0・2・4
丙	谷屋	諸星	志村	山口	山口	起案	23・11・17
						決裁	23・11・17
						施行	・

### 秦野市公共施設再配置計画推進会議開催結果

会議名	<input type="checkbox"/> 平成 年度 第 回 本部会		
	<input type="checkbox"/> 平成 年度 第 回 プロジェクトチーム		
	<input checked="" type="checkbox"/> 平成 23 年度 第 1 回 施設保全調整 ワーキンググループ		
開催日時	平成 23 年 11 月 15 日 (火) 午前 9 時 00 分 ~ 午前 11 時 00 分		
開催場所	本庁舎議会第 4 会議室		
出席者	公共施設再配置推進課長(グループリーダー)	建築住宅課課長補佐(建築担当)	建築指導課建築確認担当技幹
	防災課課主事補(防災担当)	教育総務課課長補佐(施設管理担当)	財産管理課主査(財産管理担当)
	事務局   公共施設再配置推進課施設保全調整担当技幹		
議 題	1 公共施設再配置計画の推進体制について		
	2 施設管理に関するアンケート結果による現状と課題と対策について		
	3 今後のスケジュールについて		
	4 その他		
配付資料	資料 1 秦野市公共施設再配置計画推進体制体系図		
	資料 2 市有建築物の適切な保全管理及び計画的な維持補修の推進に関する質問の回答結果(資料2-2質問内容含む)		
	資料 3 回答結果による【現状】【課題】【対策】について		
	資料 4 今後のスケジュール案		
会 議 結 果			
<p>① 秦野市公共施設再配置計画推進会議の施設保全調整WGでは、主に公共施設再配置計画に示されている、インフラ系、プラント系を除いた、いわゆる「ハコモノ」施設の一元管理及び長寿命化の推進について、今後検討していきます。 この検討組織ができたことで、今まで、主に公共施設の耐震化を目的として開催してきた「公共施設保全整備等に関する調整会議」は、その目的がほぼ終了した事もあり、廃止します。</p> <p>② ワーキンググループの構成課(検討メンバー)として、庁舎管理を担当している財産管理課を新たに含めているが、多くの消防施設を所有している消防総務課や消防法の規定に基づく法定点検の事務所管課(消防：予防課)なども、今後検討構成課として含める必要があるのではないか。 ⇒ ご指摘の課も含め、打合せの進捗状況や内容に合わせ、必要に応じ、必要な課等を、会議規則に基づき、出席について、依頼していきたいと考えています。</p> <p>③ 施設の長寿命化を検討していく中で、長寿命化につながる修繕や工事の項目(工種)や優先順位(施設の順位・各施設ごとの部位や項目の順位)も検討する必要があるのではないか。 ⇒ 施設の長寿命化は、残すべき施設を定期的な保守点検やメンテナンスを行うことで最低でも、施設ごとの耐用年数までは、使用できるようにしようとするものです。 施設ごとに若干の違いはあると思いますが、長寿命化につながる修繕や工事の項目や部位ごとの優先順なども、今後検討していく必要があると考えています。</p>			

④ 修繕や工事の中には、施設の快適性の向上や利便性の向上、意匠、デザインの変更を目的とした改修工事などもあるが、長寿命化の検討では、そのような工事等も想定していくのか。

⇒ 施設本体の構造の維持や施設の利用に支障を与えないように設備機器等の各機能を維持することが求められる長寿命化には、直接関係してこない改修工事などは、検討の対象とは考えていませんでしたが、施設の「リニューアル」や「リフレッシュ」のためにどうしても行う必要があるのであれば、長寿命化対象工事等と時期を合わせて行うことで、工事総額を削減することはできると思いますので、改修計画があるのであれば、今後、施設ごとの長寿命化対象工事の中長期計画を作成していく中で、検討することも可能かと思います。

⑤ 今後の対策案の一つとして、市有建築物の施設管理を総合的に行う窓口（施設管理課の創設や財産管理課へ施設管理班の創設）の設置を検討とあるが、どの様な組織を想定しているのか？今ある組織では、人員的にも職种的にも対応できないのではないのか。

⇒ 新たな組織の立ち上げや既存組織の改編を行うにしても、組織の位置付け、構成なども含め、今後、このWGを中心に、検討することになると思います。組織として機能させるには、少なくとも建築職、電気職、など専門的な知識を持った職員が所属する組織にならないと意味がないかと思います。

⑥ 建物が建って10年目なので、何をしなければいけないとか、建物の築年数に応じて行う必要がある補修工事やメンテナンス工事のメニューやマニュアルが必要。

⑦ 各施設に関する数値データがばらばらで統一されていない。現在の数値データの根拠も不明な場合がある。

⑧ 施設の現状把握の方法として、職員など（建築職、電気職など）による現状調査（内、外観目視調査）を行うとの予定が示されているが、慢性的な人員不足等により、建築、電気職員での対応は、難しいのではないか。

また、調査時期についても、上半期だと夏休み工事の発注や契約事務、工事の段取りなど、一年の中でも一番忙しく職務量も多い時期なので、協力依頼があっても、とても対応はできないのではないか。

⇒ 慢性的な人員不足や専門的知識を持つ職員の不足については、理解しています。費用も人員も不足する中で、必要な作業を実施していくには、新しい発想や知恵、アイデアを出していくしかないとも思っています。

専門的知識がなくても調査できる方法や現状調査に限らず、施設の現状を把握する方法などについても、今後検討していければと思います。

⑨ 施設の現状調査を行う対象施設数は、いくつあるのか。

⇒ 再配置計画で示している公共施設数は、「インフラ系」「プラント系」も含め、457施設ありますが、現状調査の対象となる「ハコモノ系」は223施設になると考えられます。

⑩ 今後、施設の長寿化を目指し、施設ごとに中長期修繕計画等を作成するのであれば、施設の劣化度調査を実施する必要があるのではないか。

また、その調査の方法は、同じ時期に同じ業者、同じ基準で一括して行う必要もあると思う。

そうでないと、調査結果に大きなばらつきが生じてしまい、全体を通しての中長期修繕計画や修繕や工事の優先順位を定めることができなくなってしまう。

⇒ 劣化度調査を行うことは、施設の状況を把握するのに必要な作業の一つだと思います。

しかし、専門業者への委託により、一括して行うとなると多額の費用がかかるのも事実です。必要性は認識しつつも、費用対効果なども検討した上で、実施時期や方法についても、今後検討していければと思います。

⑪ 今日の説明で解らないことや、疑問点、不明点などや、会議資料を再読して頂いた中で、新たに気付いた課題や問題点などについて、後ほど様式を送付するので、解決策や提案も含めて、回答してください。

施設の長寿命化や一元管理への取り組みに対し、検討すべき事項や課題、取り組むべき内容などは、数多くあると思います。

・何を、どこから、どの様に、取り組むべきなのか？

・本市の実情（人的問題、財政的問題）にあった仕組みはどの様なものなのか？

それらも含め検討しなければいけないことや、把握すべき内容は、数多くあると思っています。

事務局の担当職員だけでは、できることは限られてしまいます。計画を推進していくためには、ワーキンググループ構成委員を中心として、関係各課の理解と協力が必要不可欠です。

費用も人員も不足する中で、必要な作業を実施していくには、新しい発想や知恵、アイデアを出していくしかないと思っています。

ぜひ皆様の知識と経験、知恵とアイデアでサポートしてほしいと思っていますので、ご協力をお願いいたします。

⑫ 検討スケジュールについては、「一元管理」「長寿命化」に分けて作成していますが、それは、再配置計画で示されている達成年度が違うからです。

「一元管理」に関しては、平成24年度中の施設台帳の整備が求められているため、検討は、今後も同時進行で行う予定です。

備考	